

農業学園に参加してみませんか？

普及センターでは、農業を始めて間もない方等を対象に、農業経営における課題解決活動を支援するための農業学園を開催しています。

スキルアップのための各講座のほか、同年代の農業者と情報交換・交流できる貴重な機会にもなりますので、ぜひご参加ください。

○令和7年度 開催予定講座

月	内 容	月	内 容
6	病虫害防除講座（稲敷）	11	農業経営研修（つくば）
7	雑草対策講座（つくば）	12	土づくり講座①（土浦）
8	先進経営農家視察（稲敷）	1	県南地域青年農業者プロジェクト 合同発表会（つくば）
9	れんこん講座（土浦）	2	土づくり講座②（土浦）
10	販売戦略講座（稲敷）	※（ ）内は開催地	

【お問合せ先】

稲敷地域農業改良普及センター（担当：小野） 電話：029-892-2934 FAX：029-892-6684

いばらき農業アカデミーのお知らせ

茨城県では、農業技術・経営力の向上を目指す方や、農業を志している方などを対象に、「いばらき農業アカデミー」を開講しています。経営管理や生産・加工技術、先進技術など、目的に応じた講座を自由に選択し、受講することができます。

講座は順次開講しています。開講時期や内容、申込方法の詳細はホームページ、またはFacebookをご確認ください。

ホームページ



Facebook



【お問合せ先】

いばらき農業アカデミー事務局

（農業総合センター内）

電 話：0299-45-8321 F A X：0299-45-8350

農業大学校の学生を募集しています

県立農業大学校では令和8年度入学生を募集しています。定員は農業部：農学科40名、畜産学科10名、園芸部：園芸学科30名です。

出願資格やオープンキャンパスについて、詳しくはホームページをご確認ください。

◆入学願書の受付期間

◎推薦入試（試験日：令和7年10月28日（火））

令和7年9月29日（月）～10月17日（金）

◎一般入試 前期（試験日：令和7年12月12日（金））

令和7年11月10日（月）～12月5日（金）

◎一般入試 後期（試験日：令和8年2月27日（金））

令和8年1月26日（月）～2月18日（水）

ホームページ



学校説明会申込み



【お問合せ先】 県立農業大学校

電話：029-292-0010（代） FAX：029-292-0903

令和7年6月

茨城県県南農林事務所
稲敷地域農業改良普及センター
稲敷市江戸崎甲541 稲敷合同庁舎内
TEL 029(892)2934 HP
FAX 029(892)6684
Mail inanofu@pref.ibaraki.lg.jp



緑のしるべ ～夏号～

稲敷地域女性農業士会が「いなしき食農交流ミニフォーラム」を開催！



稲敷地域女性農業士会では、令和6年10月25日に牛久市のつくば栄養医療調理製菓専門学校にて、専門調理師学科の学生14名に対し、食農交流を目的とした特別授業を行いました。

今回は、食材としてれんこんを取り上げ、女性農業士が講師となり、特性や栄養価、調理実習に加え、紙芝居や動画によるれんこん栽培についても説明しました。

学生からは、「れんこんの食材としての特徴だけでなく、栽培から食材になるまでの過程を知ることができ、れんこんがより身近に感じた」などの声が聞かれました。

生産者である女性農業士による授業で、地元農産物の理解を深める有意義な交流会となりました。

稲敷地域青年農業士会が「いなしきアグリカフェ」を開催しました

稲敷地域青年農業士会では、令和6年12月10日に県立江戸崎総合高等学校グリーンテクノ系列2年次生との交流会「いなしきアグリカフェ」を開催しました。

前半は、株式会社常南ファーム（河内町）の野澤拓哉氏から米の生産と、自社の米粉を使用した加工品開発への取り組みについて講話を行いました。

後半は、4班に分かれ意見交換を行いました。生徒からは青年農業士に対し、農業のやりがいや苦勞、生活面等の様々な質問が出され、将来の就農への意識を高めていく良い機会となりました。



意見交換会の様子

水稻のカメムシの防除対策

茨城県では、斑点米カメムシ類による斑点米の発生が、等級低下の主要因となっています。特に昨年は、斑点米カメムシ類の一種である「イネカメムシ（図1～3）」による被害が多くみられ、斑点米の発生だけでなく不稔の発生により穂の青立ちが発生し収量が低下しました。

イネカメムシは他の斑点米カメムシとは防除方法が異なります。高品質米生産のために、適期を逃さない防除を心掛けましょう。

●水田周辺の雑草管理（イネカメムシ以外の対策）

水田周辺のイネ科雑草は、カメムシ類の生育場所となるため、除草に努めましょう。ただし、出穂間際の除草はカメムシ類を水田内へ追い込むことになるため、出穂の2週間前までに終わらせましょう。なお、イネカメムシは越冬成虫が直接水田に飛び込むため、雑草管理による防除効果は期待できません。

●薬剤防除

イネカメムシ 不稔防止のために**出穂期（4～5割の穂が出穂）**に防除を行ってください。さらに、**斑点米被害の軽減に乳熟初期（出穂期7～10日後）**に2回目の防除を行ってください。薬剤は1回目と異なる薬剤を使用してください。

イネカメムシ以外のカメムシ 斑点米被害の軽減のために**乳熟期（出穂期10～15日頃）**に防除を行ってください。



図1 イネカメムシ成虫



図2 イネカメムシ幼虫



図3 イネカメムシ卵塊

レンコンネモグリセンチュウの防除対策

県内のれんこん産地では、レンコンネモグリセンチュウが引き起こすレンコン黒皮症（図1）が問題となっています。発生後に対策を行わずに放置すると、被害が徐々に大きくなるため、早期の診断と対策が重要になります。

耕種的防除や薬剤防除を組み合わせ、総合的な防除対策を実施することで、被害の拡大防止に努めましょう。

●持ち込まない対策

- ①センチュウに汚染されていない健全な種バスを使用する。
- ②畦畔の補修や整備を行い、水口以外からの水の流入を防ぐ（図2）。
- ③圃場を移動する際には農機を洗浄する。

●増やさない対策

- ①除草の徹底、収穫後の残渣除去でセンチュウの寄生場所を減らす。
- ②植付前に石灰窒素およびグランドオンコル粒剤を施用し、密度を減らす。
- ③被害が大きい圃場では早掘りし、被害の軽減を図る。
- ④作付けローテーションが可能な場合は休作する。

（注）石灰窒素は高温時での施用が効果的であるため、被害が大きい圃場では早掘りあるいは床立ち収穫後の夏～秋（10月まで）に施用する。この場合、植付前に石灰窒素は施用しない。

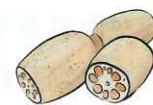


図1 レンコン黒皮症の症状



図2 波板により畦畔補強した例

普及センターではレンコン黒皮症の診断を行っていますので、疑われる症状があった際はご相談ください。

◆ 農薬の使用に際しては、ラベルをよく確認し、適切に利用しましょう ◆

全国そば優良生産表彰で農事組合法人美浦エコアグリクラブが「全国農業協同組合中央会会長賞」と「全国蕎麦製粉協同組合理事長賞」を受賞！



令和6年度第36回全国そば優良生産表彰で、美浦村の農事組合法人美浦エコアグリクラブが「全国農業協同組合中央会会長賞」と「全国蕎麦製粉協同組合理事長賞」を受賞しました。この表彰は、低コスト・品質向上などの面で模範となるそば生産農家及び生産集団を表彰するものです。

美浦エコアグリクラブは約20年前に転作作物としてそばの作付けを始め、4年前から採種にも取り組むことで、収益性を向上させています。

今後も耕作放棄地再生により、更にそばの作付面積拡大を予定しており活躍が期待されます。

第3位

「飼料用米多収日本一」で荒井和浩氏が県内第3位受賞！

「飼料用米多収日本一」は、飼料用米生産技術の面から先進的で他の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介することで、飼料用米生産農家の生産にかかる技術水準の向上を図るために開催されています。令和6年度の当コンテストでは、稲敷市の荒井和浩氏が、単位収量634kg/10aの高単収で県内第3位の「協同組合日本飼料工業会企画振興委員長賞」を受賞しました。荒井氏は、飼料用米を21.7ha作付けし、作期分散や耐倒伏性等を考慮し、「ちほみのり」、「オオナリ」を選定しています。多収を達成するために、適期移植と多肥栽培を基本とし、レーザーレベラーによる均平化、ドローンを活用した病害虫防除に努めています。

また、高密度播種による苗箱使用数の削減や立毛乾燥などでコスト低減も図っています。今後も、需要に応じた米生産に取り組んでいきたいと思っています。



左から2人目が荒井和浩氏

特別賞

「令和6年度いばらき農の6次化商品コンテスト」で株式会社牛久みやもとファームが特別賞を受賞！

令和6年11月28日に「令和6年度いばらき農の6次化商品コンテスト」が開催されました。本コンテストは、県内で開発・販売されている6次化商品の魅力を県内外に発信するため、毎年開催されています。管内では、株式会社牛久みやもとファーム（牛久市）が「焼芋アイス」を出品し、厳正な審査の結果、特別賞を受賞しました。

「焼芋アイス」は、カンショ栽培時に出る規格外品の有効活用を目的に開発されました。素材を丸ごとすりつぶして使用することで、カンショ本来の味を強く感じることができる商品となっています。商品は牛久市内のお土産店等で購入できます。

今後の販売促進が期待されます。



2列目左端が宮本氏

◆ 一番危険なのは「慣れ」 農作業事故を防ぎましょう ◆